

終業式という言葉 (R6. 7)

今日は1学期の終業式。明日から夏休みを迎えます。関東地方は、昨日梅雨明けをしました。暑い日が続いています。今日は、夏の言葉を集めてみました。

「雨脚」あまあしと読みます。

雨が降りすぎていく様子を表します。「雨脚が速い」とか「雨脚が強くなる」なんて使います。この前も渋谷区では雨脚が強くなって、渋谷川が氾濫警戒水域に達したと報道がありました。この時期の雨には十分気を付けてください。

梅雨が明けたので、うだるような暑さがやってきます。この「うだる」も夏の言葉。暑くて体がだるくなることを表します。夏休み、決して無理はしないで体調を整えてください。

でも、長い目で見ると、梅雨に降る雨は恵みの雨と言えるのです。この時期の雨があるからこそ、夏の暑さがあるからこそ、稲や野菜が育つのです。

このことを、皆さんの生活にたとえてみましょう。今、梅雨の雨のように、悩むことが続いている人もいるかもしれません。夏の暑さのように、苦しみを抱えている人もいるかもしれません。でも考えてみてください。人間には、そういう時期もあるものです。いずれ、恵みの雨と同じように、今の悩みや苦しいことが肥料となって、すてきな花が咲き、実をつけるのです。

「青葉」あおばです。

緑色の木の葉のこと。若い葉とかいて「若葉」とも言いますね。少し話はそれますが、昔から日本人は、緑と青は厳密に使い分けていないようです。信号の青は緑ですね。葉が緑色に見えるのは、クロロフィルという葉緑素が多く含まれているからだそうです。緑は、若い力を感じさせます。

皆さんは、人生で言うところの青葉の時期。心もからだもどんどん伸びるのです。この夏は、様々なことに一生懸命取り組んで、成功した喜びとか、やり遂げた経験とかを通して、心や体の栄養をたくさん蓄えてください。

「木漏れ日」こもれびと読みます。

青葉の間から漏れる光のことをさします。太陽の光が青葉にさえぎられて影ができます。その青葉と青葉の間から光が差すので木漏れ日が生まれるのです。木漏れ日とは、日本にしかない言葉だそうです。自然に対する感性が高いのでしょう。1学期の成績が伸び悩んだとしても、それは一時的な影の部分です。必ず木漏れ日が見えるときがきますよ。

光線がキラキラ照り輝いてまぶしいことを「まばゆい」と言います。今、陰だと思っている人は、夏休みにまばゆいことを見つけてください。

夏の言葉をいくつか紹介しました。皆さんにとって、すてきな夏休みにしてください。